

米

穂肥の時期・施肥量は適正に!



大津中央支所営農課
桐原 竜治

8月は、品質・収量に最も影響を与える大切な穂肥の時期です。早い追肥(穂肥)は倒伏・品質低下の原因となるので、十分観察して行いましょう!

穂肥の施用時期の効果

◎ 効果大 ○ やや効果あり × 効果不十分、マイナス

出穂前後日数	-22	-18	-11	-4	+3	+10
幼穂長	2mm	7mm	10cm	20cm	20cm	20cm
伸びる節	5~4節	4~3節	3~2節	2節	—	—
1穂につく籾を増やす	◎	○	○	×	×	×
登熟をよくする	○	○	○	◎	○	○~×
1籾を重くする	×	×	○	◎	○	○~×
食味をよくする	○	○	○	○~×	×	×

穂肥の目安 穂肥は品種により施用時期が異なり、早く行えば止葉が伸び登熟が低下し、くず米が多くなりやすいので注意して行いましょう

品種名	出穂期	穂肥の時期			施肥量(1回分) 10a当り
		1回目	(幼穂長)	2回目	
ヒノヒカリ	8/25頃	8/7~9頃	7mm	8/17~19頃	10~15kg
くまさんの輝き ※特別栽培米	8/28頃	8/10~12頃	7mm		20kg ※新有機米特2号の場合
あきまさり	9/4頃	8/15~17頃	7mm	8/25~27頃	15kg

【ヒノヒカリの場合】

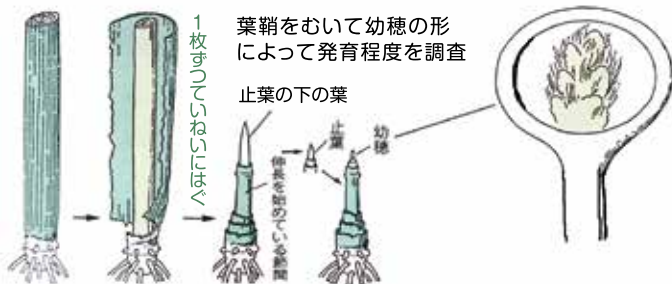
(1) 1回目穂肥の目安…8月7日~9日頃(出穂前18~20日)

- ◇ 出穂前22~25日頃は、第4節間を中心に下位節間が伸びる時期であるため早い穂肥は倒伏しやすい状態となる。
- ◇ 幼穂長が7mm以上になると第5節間の伸張が止まり、第4節間がわずかに伸びる程度であるため、穂肥を安心して施用できる。

(2) 2回目穂肥の目安…8月17日~19日頃(出穂前8~10日)

- ◇ 幼穂長10cmの時期には、下位節間の伸張は終わり、一穂籾数の退化を防ぎ登熟をよくする。

幼穂長でみる適期の見方



注意

化学肥料に比べて、油粕や有機配合肥料は肥効の現れ方が遅いので、追肥として施用するときは、有機質肥料の特性を考慮し施用する必要があります。(有機配合肥料は有機率に差があり、高いものは肥効が遅く、低いものは早い傾向にあります。)

☆基肥一発肥料を施用されている方は、基本的に穂肥の必要はありませんが、田植えの1週間以上前に散布されたり、高温で経過し登熟後期に肥効切れが心配される場合は、各中央支所担当へご相談ください。